

協議会ニュース 141号

愛知県自然観察指導員連絡協議会 2013. 12



センブリ (リンドウ科) 杉澤 周子 (奥三河支部)

指導員講習会 新指導員紹介	会長 大谷 敏和 …P2
研修レポート 生物分類について	尾張支部 久米 未祐……P3
あいちの自然観察会報告 名古屋支部 滝田 久憲/東三河支部 牧野 紀子 P4	
研修報告 海浜植物観察	名古屋支部 滝田 久憲…… P5
” 磯の生き物とエサキムカシハナハチの観察	西三河支部 三田 孝……P6
” 伊吹山の生きもの	尾張支部 斎竹 善行…… P7
” 鳳来寺山穴場を探検しよう	奥三河支部 森田 邦久…… P8
自然観察のヒント	名古屋支部 山田 千宏……P9
私の活動紹介	東三河支部 間瀬 美子……P10
理事会報告	… ……P11
行事案内・編集部	… ……P12

自然観察指導員講習会 & 新指導員紹介

会長 大谷 敏和

平成 25 年 9 月 7 日（土）・8 日（日）、NACS-J・愛知県主催の自然観察指導員講習会が犬山国際ユースホステル（愛知県犬山市）で開催され、49 名の新指導員が誕生しました。そのうち 31 名の方々が私たち愛知県自然観察指導員連絡協議会会員となりました。今後の活躍が楽しみです。

主催である愛知県が財政的に厳しいため、前回から宿泊ではなく通いで開催となりました。他県の講習会では定員割れしたところもあると聞いていましたので、6 月末にはチラシを配布し、PR 活動に乗り出しました。努力の甲斐あり応募者は定員を大きく超えましたが、会場の都合で 53 名にしぼられました。

講習会の日程が 2 日間となり内容も凝縮されましたが、参加しやすくなったため、若い方、自然と関わる仕事をしている方、さまざまな分野でボランティア活動されている方の参加がありました。

「自然観察の素材探し」や「自然観察会の企画」は受講生の多くが苦勞するところですが、日頃活動している会員が受講生のサポートをし、充実した内容になりました。

講習会の実施にあたり、会員のみなさんには地元講師として支部の活動紹介や早朝のミニ観察会などに携わっていただき、受講生との懇親も深まりました。また、運営補助にあられた方には、駐車場案内誘導、野外実習補助、懇親会運営などボランティアをしていただき、ご苦勞様でした。疲れはしたものの、さまざまな人との出会いや多くの方のご協力に充実感を得ることができ、感謝感謝です。ありがとうございました。

●新たに会員になった方々（敬称省略）

名古屋支部 大熊琢巳、大畑史江、小笠原芳夫、鹿嶋湧太、田澤健治、辻光、野村幸代、日浦誠章、星野信子、堀井正己、横井昭彦

尾張支部 大橋建之、源田孝、角田美枝子、高島裕美子、難波郁子、野中賢輔、林香織、舟橋友一、横井利文、

西三河支部 荻谷眞江、佃井登美子、西村継博、伴幸成、渡邊勝美、近藤邦昭

知多支部 小笹幸多、桑村リン、永田寛美、渡邊晋

加入支部検討中 高原寛徳



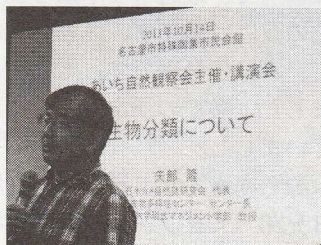
▲平成 25 年度自然観察指導員講習会 犬山国際ユースホステル（愛知県犬山市）

あいち自然観察会主催 講演会 「生物分類について」

講師：矢部 隆先生（日本カメ自然誌研究会/なごや生物多様性センター/愛知学泉大学現代マネジメント学部）

尾張支部 久米 未祐

平成 25 年 10 月 14 日（月・祝）、矢部隆先生をお迎えし、講演会を開催しました。当日は一般の方も含む 75 名が参加しました。



▲矢部隆先生の講演の様子

1 今、なぜ分類学なのか？

人間は物を区別し名前を付けたがります。約 2000 年前のギリシャで、物を理解するために分解し分類しようという今の自然科学につながる思想が生まれました。ただし人間至上主義のため、人間の生活上の都合で分ける人為的なものでした。一方、自然のしくみを正しく理解したいという欲求のもとに自然分類も生まれました。

2 分類学の歴史

（1）アリストテレス(384-322B.C.)

アリストテレスは詳細な観察・解剖などから生物を、人類、胎生四足類（哺乳類）、卵生四足類（爬虫類、両生類）、鳥類、魚類などに分類しました。アレクサンドロス大王の家庭教師である彼は、大王が遠征先から持ち帰った珍しい生物を観察・分類することができたのです。

ちなみに、地を這うものとして爬虫類と両生類を一括りにした影響は根強く残っており、現在でも生態の違いにも関わらず学会は同時に開催されています。

（2）カール・フォン・リンネ(1707-1778)

リンネは二名法を創設し、単位としての「種」を認識、上位分類（界、綱、目、属）を確立しました。キリスト教成立以後は、世界を作った神の意思を推し量りたいという宗教的意味合いが強くなり、リンネ自身もその目的から研究を進めていました。

（3）進化論の分類学に対する影響

ラマルク、ダーウィン、ウォーレスらにより、生物分類に進化の発想がもたらされました。私個人は自然淘汰で全てが決まるとは思いませんが、性淘汰による影響はあると思います。

（4）現代の分類学

現代は表形分類学、進化分類学、DNA による分子系統学につながる分岐分類学などがないまぜになって存在しています。

人間は形質の特徴に頼る部分が大きく、恣意的に分類せざるを得ません。DNA の研究が進み、属・科などの再整理も行われています。ただし、DNA の比較は個体の違いまで見えてしまい、種の否定にもなりかねません。また生態を知らなくても結果が出るため、生物への愛が感じられないと思うこともあります。

3 自然観察の現場での種の同定

生物の名前探しは自然・生物多様性の理解につながります。皆さんも学名に慣れていただき、見分けることを厭わず、図鑑を片手にフィールドに出てみてください。

講演の後には、あいち自然観察会各支部の活動紹介も行いました。

レポート あいちの自然 =田んぼに生える野草観察=

名古屋支部 滝田 久憲

日時：7月14日 天気：晴れ

場所：名古屋市守山区中志段味

参加者：一般12名 指導員：10名

今年のあいちの自然観察会は、名古屋市守山区中志段味地区にある才井戸流や野田農場の田んぼなどを訪れ、そこに生息する生き物を観察しその現状などを視察しました。

中志段味地区は、東谷山などを水源とした湧水が豊富な場所で、最近まで水田やため池などの里やま的な景観が残された場所でした。しかし、都市化の波には勝てず、区画整理が進み、大型商業施設が建設されようとしています。農家にとって、水は生命線です。そこで、この地区の人々は水神様を祀り、水が枯れないように祈っていました。多くの湧水ポイントは壊されましたが、水神様のひとつが諏訪神社に移され、祀られていました。

諏訪神社の脇の坂道を下ったところにある才井戸流の水源も湧水です。初夏には2種類のホタルが飛び交う自然豊かな場所です。ここでは、ミクリ3兄弟（ミクリ、ヤマトミクリ、ナガエミクリ）ミズハコベ、ミズタガラシなどの水辺の植物やヒメタイコウチやハグロトンボなどの昆虫を観察しました。この湧水がいつまでも続き、才井戸流の自然が残されることを願いつつ、野田農場を訪れました。おかみさんから農場の歴史、現状などを聞きました。田んぼでは、トノサマガエル、ヌマガエル、マドジョウ、スジエビなどを観察しました。そこには、地域から孤立し、行政からも敵対視されながらも自力で井戸を掘り、作られた田んぼの生態系がありました。名古屋市内から田んぼが消える日は近いかも知れません。

レポート あいちの自然 =沖野の田んぼの生きものたち=

東三河支部 牧野 紀子

日時：11月10日 天気：雨

場所：豊橋公園

参加者：3名 指導員23名

毎月定例観察会として豊橋公園で行われる観察会。11月は公園から足を伸ばして、沖野と呼ばれる田んぼの秋の生き物の様子を観察に出かけました。ここは6月にも観察に訪れており、その時は水の張られた田んぼで活動するカブトエビやホウネンエビ、生まれたばかりのナマズの稚魚を見ることが出来ました。

季節が変わって11月。すでに稲刈りが終わり、水も落とされています。泥の中へ潜って冬越ししそこねたスクミリンゴガイ（外来）がいました。佃煮にするイナゴも発見。畦にはどこか郷愁を誘うヨメナの花が。そして在来、外来交えた秋の草がたくさん！！カロライナツユクサという新たな外来ツユクサ、ハキダメギクとコゴメギクの似たもの同士の見分け方を学び、ミニチュアひまわりみたい？なタカサブロウの種子、春の七草の一員コオニタビラコも健在でした。

この日すっかり本降りとなった雨の中、行きのコースではムクノキの実を味わい、帰りはアキニレの乙な味を楽しみ、豊川にきているキンクロハジロなどのカモを眺めました。公園に戻り、今年発見したアフリカヒメアヤメ（外来）のおびただしい芽だし、朽ちかけたケヤキに出たヤナギマツタケと、雨の中でも結構見所があった観察会となりました。

海浜植物観察

名古屋支部 滝田 久憲

海浜植物の観察

その後、砂浜を歩きながら、名古屋支部の萩原会員の解説で海浜植物の観察を行いました。

観察した植物は、ツルナ、オカヒジキ、ハマダイコン、コウボウムギ、ハマボウフウ、スナビキソウ、コマツヨイグサ、ハマエンドウ、ハマヒルガオ、リュウゼツラン、ビロードキサフジ、クコクなどです。

ハマヒルガオの群落とスナビキソウは健在でした。特に、スナビキソウは愛知県ではこの海岸ぐらいでしか観察することができません。地元でも、防風対策を施して、砂浜の保全を図っているとの事。今、愛知県では、開発などにより砂浜の面積が減少しています。砂浜でしか生きることのできない海浜植物もあり、今後が心配されます。

日 時：5月6日（土）10：00～12：00

場 所：常滑市蒲池町鬼崎海岸

参加者：名古屋支部会員 16 名、

他支部より 5 名、

会員外 7 名

合計 28 名

鬼崎漁港と鬼崎海岸

伊勢湾は、木曾三川を通して愛知、岐阜、長野の三県の山々で育まれた豊かな栄養塩が注ぎ込まれているために豊かな漁場となっています。

常滑市の鬼崎漁港は知多半島の西海岸にあり、この伊勢湾に漁場を持つことから、沿岸漁業や海苔養殖、アサリなどの捕獲の基地となっています。

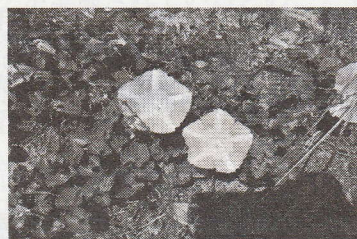
鬼崎海岸はこの鬼崎漁港を挟んで南北に広がっており、砂浜が多いことから海浜植物の生息地となっています。

久しぶりに名鉄電車の常滑線に乗りました。電車は鬼崎漁港に近い蒲池駅に定刻に着きました。踏切を渡って、海岸に向かう途中に細い路地がたくさんありました。家のたたずまいなどを見ると、漁師町の面影が残っており、タイムスリップしたような気になりました。

海岸生物の観察

現地に到着するとすでに知多支部の会員の指導のもと、海岸生物の観察が行われていました。

いつも感じるのですが、生物の発見は人が多いほどその種類が多いということです。知多支部の永田会員などによる解説で多くの捕獲物の観察を行いました。



▲ハマヒルガオ



▲スナビキソウ

磯の生き物とエサキムカシハナバチの観察

西三河支部 三田 孝

日時：7月21日（日）9:30～15:00

場所：佐久島

参加者：10名（西三河支部会員8名、尾張支部会員1名、一般1名、合計10名）

一泊研修の企画でしたが、日帰り研修に変更になりました。当支部では佐久島において「磯の生きもの」をテーマに数度の研修会を開いてきました。今回も午前中は男子岩周辺で磯の生き物を観察し、近くの崖の上部に集団営巣しているエサキムカシハナバチを観察しました。昼食後は、島内の植物観察をし、15時の船に乗りました。

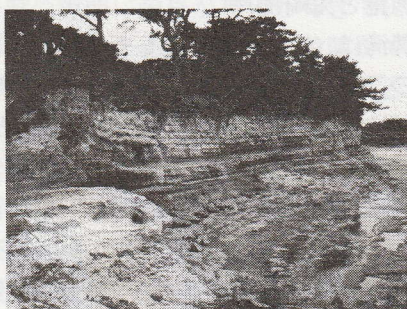
ここではエサキムカシハナバチ発見の経緯について報告をします。

エサキムカシハナバチは西三河支部の研修会で偶然に発見されました。2007年8月19日に西港近くの土崖に無数の穴が開いている様子を観察しましたが、そのときは何の巣穴なのかわかりませんでした。

翌年2008年7月19日の研修会では、島の東側の磯浜の背後にある崖上部に同様な巣穴を見つけました。巣穴を出入りするハチも観察され、数頭のサンプルを採集しました。後日、そのハチは九州、山陰、北陸の一部で報告されている稀少種の「エサキムカシハナバチ」であることが判明しました。

その後、2009年8月22日、2011年8月27日の研修会の折にも観察されましたが、巣穴を出入りするハチの数はわずかでした。今年度の研修会の下見で7月8日に訪れたときには、巣穴が島の各地で発見されました。しかし、ハチの姿が1個体も見当たりませんでした。

何らかの原因で絶滅したのではないかと心配しました。ところが、研修会当日は脚に黄色い花粉を付けた多数のハチが飛び回っている様子が観察されました。どうやら、このハチの活動期は7月中旬から8月中旬の1ヶ月くらいに限られているようです。



▲佐久島



▲土崖の巣穴



▲エサキムカシハナバチ

雲上のお花畑で自然観察

尾張支部 齋竹善行

日時：8月31日（土）9:00～16:30 曇/雨
場所：伊吹山（滋賀県米原市）山頂付近
参加者：尾張4名、名古屋4名、知多5名
一般2名

■研修の狙い

伊吹山は石灰岩質の古い山で固有種も多く、種名に「イブキ」とついた植物がいくつもあります。今回の研修の狙いは、県内で日頃あまり目にするこのないこうした伊吹山の植物を観察し、理解することです。定例観察会のない第5土曜日の8月31日に設定したので、お花畑が最もは華やかな8月の中旬からは少しずれてしまいましたが、初秋の花が期待できます。もう一つは、高い山で夏を過ごすアキアカネなどの昆虫を確認することでした。

台風15号の影響で天候が崩れるという予報で、開催が危ぶまれていましたが、朝、現地の伊吹山ドライブウェイの事務所に問い合わせた結果、何とか持ちそうだとということで決行しました。

知多支部の参加者は自家用車に乗り合わせて、その他の参加者は9:00に名古屋駅から出る名阪近鉄バスを利用して、伊吹山の山頂駐車場に10:40に到着しました。

■山頂付近の植物

参加者の自己紹介の後、西遊歩道を登り、山頂をめざしましたが、コイブキアザミ、クサボタン、サラシナショウマ、ルリトラノオ、フジテンニンソウ、オオヒナノウスツボ、イブキフウロなど次から次に現れる花に目を奪われ、なかなか前に進みません。

正午近くに山頂に到着し、昼食をとって

いる頃からガスがかかって視界が悪くなりましたが、時折、風がガスを吹き飛ばすと、琵琶湖まで眺望できました。山頂から東遊歩道コースをイブキトリカブトなどの花を見ながら下りましたが、途中から小雨が降り始めました。

■アキアカネは見られず

もう一つの狙いの昆虫の方は、アサギマダラは飛んだものの、天候のせいかアキアカネは1頭も確認できませんでした。やはり、濃尾平野の水田で発生するアキアカネが減少し、絶滅が危惧されていることと関係しているのではないかと思われました。鈴鹿山系の御在所岳ではアキアカネのマーキングが実施されているとのことですが、状況を確認してみたいものです。

天候は今一つでしたが、たくさんの花を楽しむことができました。あらかじめ講師は決めていませんでしたが、詳しい人が大勢いて、解説をしてくれました。

季節を変えて来ると、また今回とは異なった生きものに会えるものと思われます。



（山頂で記念撮影）

1400万年前の地質を巡る

奥三河支部 森田 邦久

日 時：11月10日(日) 9:30～15:00 雨
場 所：高德不動 自然科学博物館
参加者：奥三河3名、名古屋5名
一般1名

◆1400万年前の火山を想像しながら

奥三河自然観察会の地区研修会は鳳来寺山参道から、高德不動・利修仙人護摩所までの行程で観察会を行う予定でした。あいにくの雨という天候で、利修仙人護摩所までは傾斜がきつく滑りやすいということで高德不動まで行くことになりました。

参道から林道に入ると、まずはオカメザサの群生地が目に入ります。ササという名前がついていますが、日本で一番小さな竹の仲間です。竹なので節の上に皮が残っていません。その横には、縞模様の地層が目につきます。比較的厚い砂岩と薄い泥岩(頁岩)の層が交互に重なり合っています。北に向かって30度ほど傾いていることが分かります。1400万年前に活動したであろう鳳来寺火山の影響だということです。今は活動していませんが、温泉が出るということと火山性の岩石が数多くみられるということで活動のあとが分かります。

林道を進むと左手に小川が流れています。川底はでこぼこした岩盤が続いています。石質は頁岩で、「鳳来寺硯」の原石(頁岩)を採取している所もあるとのこと。

◆高德不動をめざして

林道から細い道に入ると、ところどころに赤い実、青い実、白い実を観察することができました。赤い実はミヤマシキミ、サネカズラ、サルトリイバラ、ガマズミ、カマツカ等の実です。青い実は、アオツズラフジ、白い実は、イズセンリョウです。白

い粉をふいたヌルデの実もみられます。この表面の白い粉、塩辛いので、塩の代わりになるとのことです。成分的には、塩化ナトリウムは含まれていません。

高德不動では、流紋岩の柱状節理を観察することができます。火山活動があったところ岩盤の隙間に溶岩が貫入してきて、両側から冷されたために凝縮し、隙間ができて六角形の柱状に割れる岩石になったということです。鳳来地区には何箇所かこのような柱状節理を観察することができる場所があります。

赤い鳥居と苔むした石仏。不動様が祀られているほの上からは細い糸状に水が流れ落ちています。傘やカップをたたく水音が薄暗い森に響き渡るように消えていきます。つい手を合わせたくなる神秘的な空間になっていました。

帰り道では、鳳来地区に分布する松脂岩を拾いながら歩きました。松脂岩は鳳来地区特有の岩石で、新城市のシンボルストーンにもなっています。

◆ぜひ鳳来寺自然科学博物館の見学を

遠く名古屋から鳳来まで来ていただいた方が多かったので、鳳来寺山自然科学博物館の見学をしていただきました。この博物館は、鳳来寺山を中心とする奥三河地域の地質、動物、植物について様々な展示がしてあります。

ここでしか見られない展示も数多くあり、是非大勢の人に見学に来ていただきたい博物館です。愛知県の鳥であるコノハズク(声のブッポウソウ)についての展示、鳴き声、姿のブッポウソウとの違いなど県内随一ではないかと思われます。



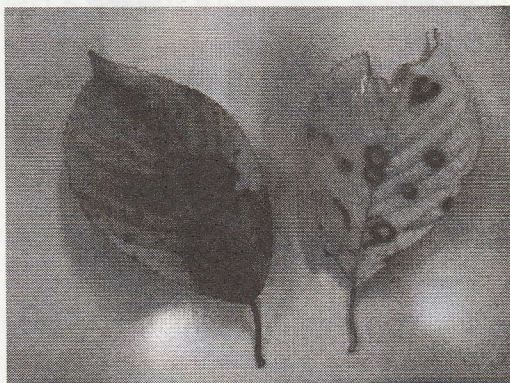
自然観察のヒント

あれ・・・??

【不思議な模様？】

カラーでお見せできないのが残念です。紅葉の季節を前にしたある日、こんな葉っぱを拾いました。「あれ、今年もだ」、なんです、黄色やオレンジ色の地に、深緑色の輪っかの模様。裏を見ると、輪っかは夏の緑の色を残しています。所々、輪っかではない、左右対称の模様や、稲妻型の模様があります。

ここにお見せする以外にも、いくつかの葉が同じような模様を見せながら散っていました。サクラの葉は、一度に紅葉して木を彩ってから散っていくのではなく、何となく適当に、我がちに散っていくという印象がありますが、こういった葉は、一番先に散っているようです。さて、それは、ともかく、この模様は？



【字書き虫】

葉についた線形の模様とくれば、まず考えるのが「字書き虫」です。ハモグリバエとかハモグリガ、あるいは、クズノチビタマムシなど、夏の間、観察会でもちょっとした話題を提供するあれです。彼ら（彼女ら？）は、捕食者から危険を避けるため、

名古屋支部 山田 千宏

葉の表面にすることをやめ、葉の内部に入ることを選びました。クズの葉にある「字」を透かしてみると、その先端の辺りに小さなウジ虫型の幼虫が見えます。葉の内の部分だけ上手に食べ進んだ後が、「字」になっているわけです。もちろん、彼らが全く安全になったわけではなく、それなりに寄生する昆虫がいるらしいのですが、ハチなどにさらわれるのは避けられるのでしょうか。彼らの食べ跡・・・「字」が重ならない仕組みはよくわかりません。木材中のカミキリムシの幼虫などが互いの音を聞いているのでは？といわれるように、字書き虫たちも音を聞いているのでしょうか。

【字書き虫・・・？】

とはいえ、字書き虫にしては丸く繋がった模様は・・・？他の葉にしても、輪っかの模様がが多い・・・。ちょっと字書き虫らしくない点があります。左右対象の模様は・・・？うまく出来すぎています。

クズの葉では、食べ跡は白っぽくなります。この葉の場合、むしろ緑が残っています。とすると、この模様は何でしょう。私が原因を知らないだけなのでしょう。昨年、気が付いた模様です。夏の間、きちっと観察しておくべきでした。失敗。

継続した観察の大切さを忘れていました。自然界の出来事は、一年に一度の観察しかできないことが多いもの。また来年こそは。みなさん、こんな失敗をしませんように。継続した観察の大切さを忘れないようにしましょう。

私の活動紹介



東三河支部 間瀬 美子

●観察会で紙芝居？

子どもたちの「理科ばなれ」を心配する声をしばしば耳にします。しかし、自然の中で遊んだり、実験を体感したり、物作りに夢中になっている子ども達の目は、本当に生き生きしています。やってみる機会を与え、ちょっとした助言で見方・考え方を伸ばしてやれば、きっと理科が好きになるのに。子どもの好奇心、あなどれません。

ところが、自然好きの大人たちでも植物・動物などに比べ岩石・鉱物などという、どうも関心が低いように思われます。

ど真ん中を中央構造線が横切る東三河は地質的にも大変変化に富んだ面白い所です。これに親しんでもらわない手はない……で、考えついたのが紙芝居作戦です。



第一作は、中央構造線内帯の領家変成岩を主人公にした「領家のおじいひとりがり」です。つたない絵と語りでしたが、幼児から大人までびっくりする程真剣に見てくれました。「紙芝居、またやってね。」というチビちゃんや、「ほう、これも領家のおじいか。」と岩をしげしげと眺めるおじさんなど、結構受けていました。これで足元の岩石にも親しみを持ってもらえるのでは、と期待しています。



第二作は、外帯のチャートの解説「チャートってなんだ」です。ストーリー性はなく、先生と子どもの対話でチャートの性質や成因などを説明しました。チャートの崖を背にしての上演で、火打石を採った穴や火おこしの実演を見たことで、面白がってもらえました。「チャートという名は知っていたけれど、これを見てよくわかったわ。」と言ってくださった人もいました。



東日本大震災のあと、図々しくも地震や津波のメカニズムを考える「地震の話」も作ってみました。絵とき物だけだったかな？

この次は、河原の石ころたちの話を作ってみようかなと思っています。中央構造線もやりたいのですが、これはちょっと手ごわそうです。

まずは難しがらずに関心を持ってもらおうという試みですが、現物と結びつけながら行うことで効果が上がるのではないかと思います。

平成 25 年度 第 3 回理事会

日時：7月15日(月・祝) 13:30～17:00 場所：岩倉市生涯学習センター会議室 2

出席者：大谷、星野、浅井、石原、久米、辻、吉田、布目、永田、森田、瀧崎、齋竹、南川、三田、岩崎(代理)、河江、

議案 1 平成25年度の活動の中間報告・各支部の報告と支部研修会変更のお知らせ

あいちの自然観察会(各支部担当)、支部研修会の中間報告(協議会ニュースNo.140、141参照)

議案 2 自然観察指導員講習会への取り組み

日時：9月7日(土)～8日(日) 場所：犬山国際ユースホテル

申込期限：7月22日(月)～8月12日(月) 必着 定員：50名(県内42名・県外8名)

宿泊をする地元講師や運営補助で参加する会員については、自己負担がないよう協議会として費用を補助する。新指導員が県協議会に入会する場合は事務連絡費として500円いただく。(協議会ニュースNo.140参照)

議案 3 生物分類の研修会開催の件

日時：10月14日(月・祝) 13:30～ 場所：日本特殊陶業市民会館第1会議室 90人

講師：矢部隆先生(愛知学泉大学教授・なごや生物多様センター長)

演目：「生物分類について」 対象：自然観察指導員・新自然観察指導員・日本自然保護協会会員・自然観察に興味がある一般の方(協議会ニュースNo.140参照)

議案 4 タケの分布調査会 竹調査の完成年度の中間報告 各支部から

議案 5 新指導員歓迎会&協議会交流の日

日時：11月30日(土) 10:00～15:00 場所：昭和の森(豊田市西中山町猿田21-1)

連絡先：TEL0565-76-1304 集合場所：交流館前 10:00

プログラム：10:15～12:00 昭和の森 自然観察会(紅葉、木の実の観察)

12:15～13:15 バーベキュー場にて昼食(おにぎりなど各自用意、器や箸持参)

13:30～15:00 交流館付属棟にて新指導員歓迎会&支部交流会

車で参加される方：交流館駐車場(NO6駐車場)駐車(なるべく乗り合わせておいで下さい)

名鉄電車※利用の方：9:30集合「梅坪駅」下車、駅前のローター ※三河線、豊田線可
西三河支部が乗用車で会場へ送迎(協議会ニュースNo.140参照)

議案 6 協議会受託事業

協議会受託事業については、謝金等の10%を協議会に納付する。

(新郊中学の自然観察ハイキング)

日時：7月4日(木) 8:40～13:30(6月22日に下見)

場所：豊田市稲武町にある名古屋市野外教育センター

(木曽川・長良川背割堤で実施する、自然観察会)

日時：9月21日(土) 11:00～14:30

議案 7 ESDあいち

なごやパートナーシップ事業へ、あいちの自然観察会(6回)を登録する。

議題 8 各担当から報告

- ・支部で集めた会費は7月末日までに協議会の会計に納入する。
- ・保険対象の参加者数については、翌月の10日までに担当理事あてに報告する。

議案 9 各支部から報告

次回 第4回理事会 11月23日(土・祝) 13:30～ 知多支部担当

(記録 事務局：石原則義)



<< 行 事 案 内 >>



■協議会事業（平成 25 年 11 月 15 日現在の情報）

◎平成 26 年度通常総会 =愛知県自然観察指導員連絡協議会=

日時：平成 26 年 3 / 21（金・祝日）午後

会場：名古屋市日本特殊陶業市民会館 第 1 会議室

交通：地下鉄・J R・名鉄金山駅徒歩 5 分

内容：総会及び（予）記念講演会

※次号 No.142 3/1 発行に詳細を掲載予定

■支部総会

◎尾張支部総会

日時：平成 26 年 1 月 13 日（月・祝日）13:30～17:00

場所：ウインクあいち 905 会議室（名古屋市中村区名駅 4 丁目 4-38）

※終了後、懇親会を予定

◎東三河支部総会

日時：平成 26 年 1 月 25 日（土）14:00～17:00

場所：穂の国とよはし芸術劇場 PLAT 研修室（豊橋市西小田原町 123 番地）

※総会終了後の懇親会：於「謝謝」豊橋市駅前大通 1 - 135 ココラアベニュー1 階）

◎知多支部総会

日時：平成 26 年 2 月 9 日（日）9:30～12:00

場所：阿久比町勤労福祉センター・エスペランス丸山（阿久比町大字棕岡字丸山 14 番地 1）

編 集 部 か ら

■昨年、本年と表紙絵を担当してくださった杉澤周子会員、ありがとうございます。精密に描かれた絵に感服！ ■編集担当の山口健会員が前号で降板となりました。ありがとうございます。 ■編集スタッフ募集！「協議ニュース」を私たちと一緒に作成しませんか。ワードの基本ができれば OK です。下記、編集部近藤までご連絡ください。

編 集 ス タ ッ プ

岡田 雅子 久米未祐

近藤 記巳子 新山 雅一

発 送 ス タ ッ プ

名古屋支部有志

「協議会ニュース」編集部

〒457-0006 名古屋市南区鳥栖 2 - 6 - 17

桜本町 C H 101

近藤 記巳子

TEL / FAX 052-822-7460

E-mail : konkimi@nifty.com

■愛知県自然観察指導員連絡協議会（あいち自然観察会）事務局

〒464-0096 名古屋市千種区下方町 7 - 3 石原 則義

TEL / FAX 052-711-3087 E-mail : noriyoshibob@yahoo.co.jp

■ Web Page : <http://naichi.net/>

愛知県自然観察指導員連絡協議会（あいち自然観察会）機関誌「協議会ニュース」141号発行